

授業科目	老年看護学方法論 I	実務経験	開講時期	単位数	授業形態	時間数
		◎	2 年次前期	1 単位	講義	30 時間
到達目標	1.高齢者の生活機能と包括的アセスメントの視点を理解する。 2.高齢者の生活を支える看護の方法を理解する。 3.高齢者の特徴を理解し、高齢者に適したコミュニケーション方法の実際を学ぶ。					講師
						専任教員
授業計画						
1 回	1. 高齢者の生活機能と包括的アセスメント 1) 基本的日常生活動作(BADL) 2) 手段的日常生活動作(IADL) 3) 日常生活活動の指標 2. コミュニケーション 1) 高齢者とのコミュニケーション 2) コミュニケーション能力のアセスメント 3) 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法					
2～ 3 回	3. 食生活を支える看護 1) 加齢による食生活・栄養への影響 2) 食生活・栄養状態のアセスメントとケア 3) 脱水と低栄養の予防と援助					
4 回	4. 排泄を支える看護 1) 加齢による排泄機能・行動への影響 2) 排泄機能・行動のアセスメントとケア 3) 尿失禁・便秘・下痢の予防と援助					
5～ 6 回	5. 清潔・衣生活を支える看護 1) 加齢による清潔・衣生活行動への影響 2) 清潔・衣生活へのアセスメントとケア 3) 掻痒症の予防とケア 施設見学についてのオリエンテーション					
7 回 ～ 9 回	高齢者とコミュニケーションをとり、また生活の場などを見学体験することで、老年期にある人の身体的・精神的・社会的変化の特徴を理解する。 ・介護老健保健施設、介護老人福祉施設に分かれて見学 (90 分×3 コマ)					
10～ 11 回	施設見学での学びの共有、グループワーク・発表 1) 高齢者の身体的特徴 2) 高齢者の心理的特徴 (1) 高齢者の「健康に対する思い」「生きがい(楽しみにしていること)」 3) 高齢者の生活状況、日常生活行動の特徴 4) 高齢者の日頃の過ごし方					
12 回	6. 活動と休息を支える看護 1) 高齢者の生活リズムの特徴と影響因子 2) 生活リズムのアセスメントとケア 3) 睡眠障害の予防と援助 4) 廃用症候群の予防と援助					
13～ 14 回	7. 歩行・移動を支える看護 1) 歩行・移動・姿勢保持のアセスメント 2) 歩行・移動動作・姿勢保持のためのケア 3) 転倒・転落の予防とケア 4) 骨粗鬆症の予防とケア					
15 回	まとめ					
評価方法	修了試験 選択問題又は論述問題による筆記試験 (100%)					
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会					
備考	予習においては教科書の該当箇所を確認し、事前に提示された課題については調べてくること。復習においては、授業に関わる確認テストを行なうこともあるため、テキスト・講義資料・参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めておくこと					